

埼玉県納税貯蓄組合総連合会会長賞

越谷市立栄進中学校 三年 栗原 成美

日本の伝統文化をつなぐ税金

私は箏曲部に所属していて、今年外部指導の先生が変わった。顧問の先生によると、教育委員会で新しい先生を探し、手配して下さったようだ。部費は一年間に五千円で、使用用途としては箏の爪の修理代、楽譜代、チューナーやメトロノーム等の電池代、箏の修理・レンタル代、箏の運搬費用などである。外部指導の先生は週に一度来て下さるが、部費の使用用途には先生への謝礼がない。部員数の増減に関わらず外部指導の先生は来て下さるが、いったい先生への謝礼はどこから払われているのか気になった。

埼玉県教育委員会のホームページで調べてみると、「文化部活動 部活動指導員活用事業」というものがあり、市町村の教育委員会が中学校の文化部活動に外部の部活動指導員の配置を行う場合に、国の「文化芸術振興費補助金」や、県の「文化部活動指導員活用事業補助金」が利用でき、謝礼や交通費などを国が三分の一、県が三分の一、市町村が三分の一負担していることが分かった。

教育委員会の手配ということは税金が使われている。私が部活動で箏を教われるのは税金で賄われている学校教育のおかげだった。

教科書・机やイスといった備品など目に見えるものだけでなく、部活の外部指導の先生への謝礼など、普段私たちの目に見えないけれども身近なことにもたくさんの税金が使われているのだと思った。

また越谷市には、「越谷市日本文化伝承の館こしがや能楽堂」がある。毎年十月には「日本文化伝承の集い」が開かれ、市内の中学校で活動する箏曲部や茶華道部、日本伝統文化部などが発表する。この能楽堂は木曾檜の総檜造りの能舞台で、日本の伝統建築の素晴らしさに圧倒される。このような日本文化の美しさを感じられる素晴らしい施設で箏を演奏させていただくことは得難い経験である。これらも国民が納める税金によって運営されていることに気が付いた。

能楽堂は「日本文化伝承の館」である。この名称に未来を担う私たちへ、日本の文化を継承して欲しいという大人たちからの願いが込められているのだと思う。

現代社会はテレビやインターネットで様々な世界を見ることができ、すぐに繋がることができるが、本来身近であった日本の伝統文化は遠くなってしまったようで、とても残念に感じる。

税金は社会の多岐にわたる様々な人や物事を支え守っている。お互いに助け合う気持ちが広がって誰かの思いをつないでいる。将来は私も勤労の義務とともに本格的に納税の義務を果たすことになる。その時には日本の文化を守り伝える側面もあることを思い出し、日本の伝統文化が続いていきますようにとの願いを込めて税金を納めていきたい。